

令和4年度全国学力・学習状況調査ならびに

令和4年度大分県学力定着状況調査の結果と分析について

由布市教育委員会

本年度、4月19日に実施された「令和4年度全国学力・学習状況調査」ならびに、4月26日に実施された「令和4年度大分県学力定着状況調査」の結果についてお知らせいたします。

1 学力調査結果の分析

(1) 小学校における学力の状況

「令和4年度大分県学力定着状況調査」〈図1参照〉

小学校では、第5学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○5年生では、すべての教科の知識・活用ともに昨年度の結果を大きく上回りました。

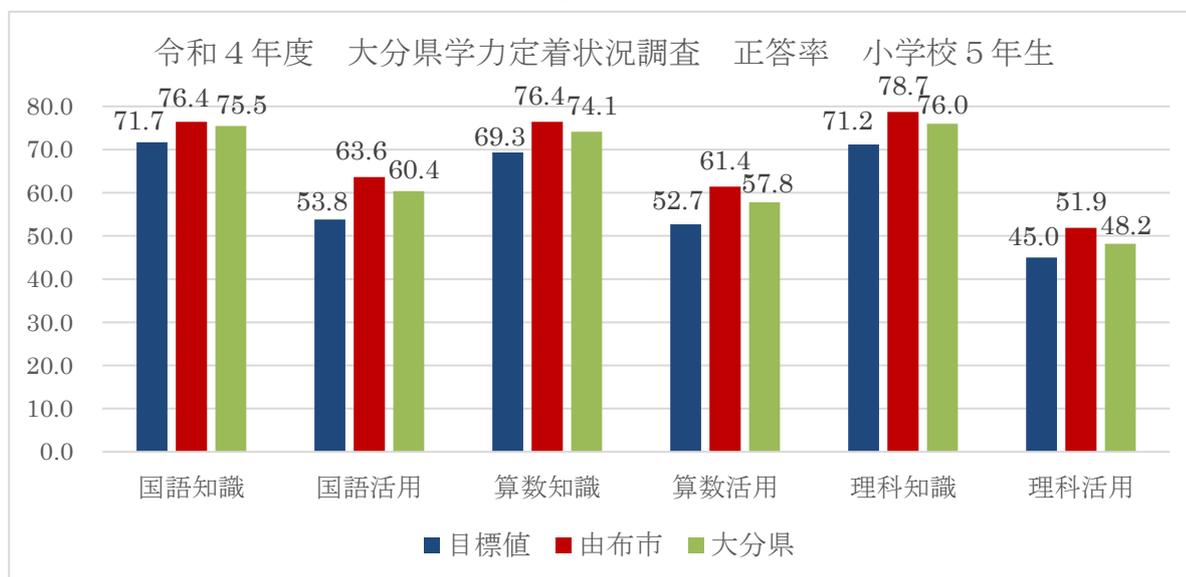
「目標値^{※注1}」「県の平均正答率」も上回っています。

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の各観点とも、「目標値」を上回り、国語の「書くこと」、算数の「数と計算」「図形」、理科の「生命と地球」で好成績をあげています。

※注1 学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。

多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

〈図1〉 教科別正答率「小学校5年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「令和4年度全国学力・学習状況調査」〈図2参照〉

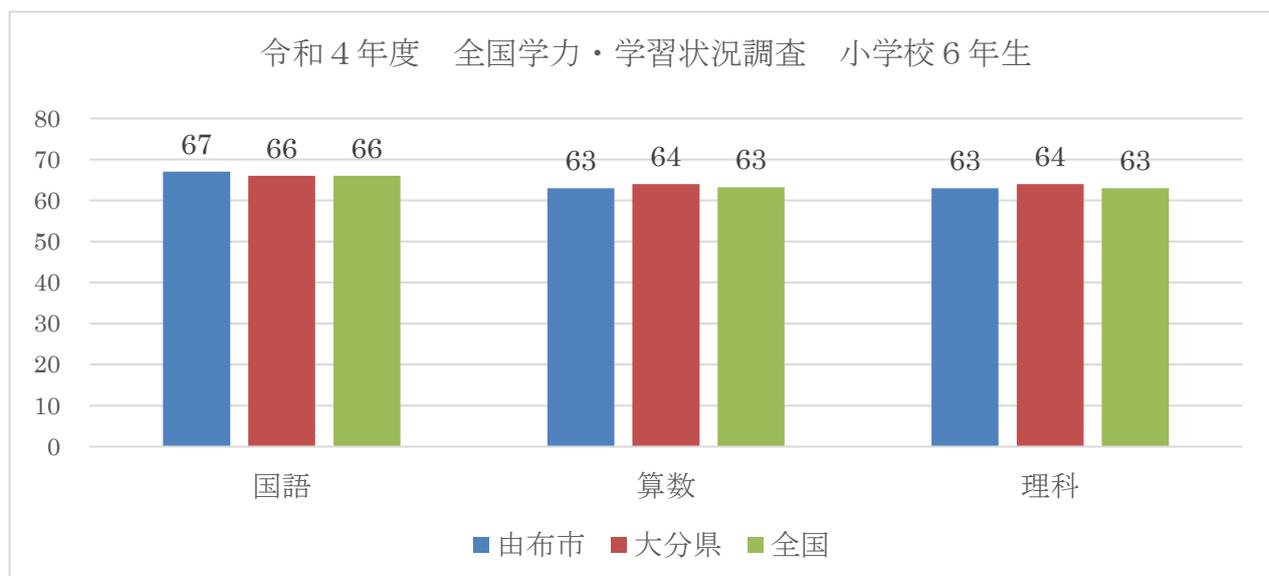
小学校では、第6学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○6年生では、国語・算数・理科ともに全国平均以上です。

○国語・算数は「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点とも、理科は、「知識・技能」の観点で全国平均以上です。

国語の「話すこと・聞くこと」で好成績をあげています。

<図2> 教科別正答率「小学校6年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「小学校における学力向上計画」

① 小学校低学年から引き続く学力向上計画

由布市においては、4月に実施される全国学力・学習状況調査や大分県学力定着状況調査、12月に実施する由布市学力調査結果を各校で分析し、弱点補強に取り組んでいます。また、付けたい力を明確にした「めあての提示」、児童が自らの学習を振り返ることができる「振り返りを授業に位置付ける」等の授業改善をしてきたことがこの結果に結びついているものと思われまます。

今日の授業で、何を、何のために行うのかの見通しをもち、考え、話し合い、考えを深化・統合し、まとめ・振り返るなどの学習を行う「子どもが能動的になる授業」をどの学年・どの教室でも今後も継続実施することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきます。

② 学力調査の結果分析をもとにした授業改善

<国語>

○想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について考える。

▲登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。

<算数>

○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。

▲数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。

<理科>

○実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。

▲水が水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。

<課題解決に向けて>

登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要となる言語活動を設定し、物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるように指導していきます。

飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の濃さを表していることを理解で

きるようにすることが重要です。そのため、生活経験を基にした判断と、飲み物の量に対する果汁の量の割合を計算で求めた結果を関連付けて考えることができるように指導していきます。

問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することが大切です。例えば、水の状態変化についての問題を見だし、問題を解決する中で習得した知識を活用して、冷たいコップに付着した水滴について、「コップの外側に付いた水滴は、空気中の水蒸気がコップの表面で冷やされて液体の水になったものと考えられます。しばらくすると水滴が消えたのは、水滴が蒸発して水蒸気になり、見えなくなったということが考えられます。沸騰しなくても蒸発するのが不思議だと思いました。」などと捉え直し、理解を深める学習活動を仕組むように努めます。

これらの課題解決に向けて補充学習の取組を行います。さらには、指導法工夫改善教員・小学校教科担任制推進のための専科教員・指導教諭といった学力向上に特化した教員からも各校の取組を発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

(2) 中学校における学力の状況

「令和4年度大分県学力定着状況調査」〈図3参照〉

中学校では、第2学年で国語・社会・数学・理科・英語の調査が実施されました。

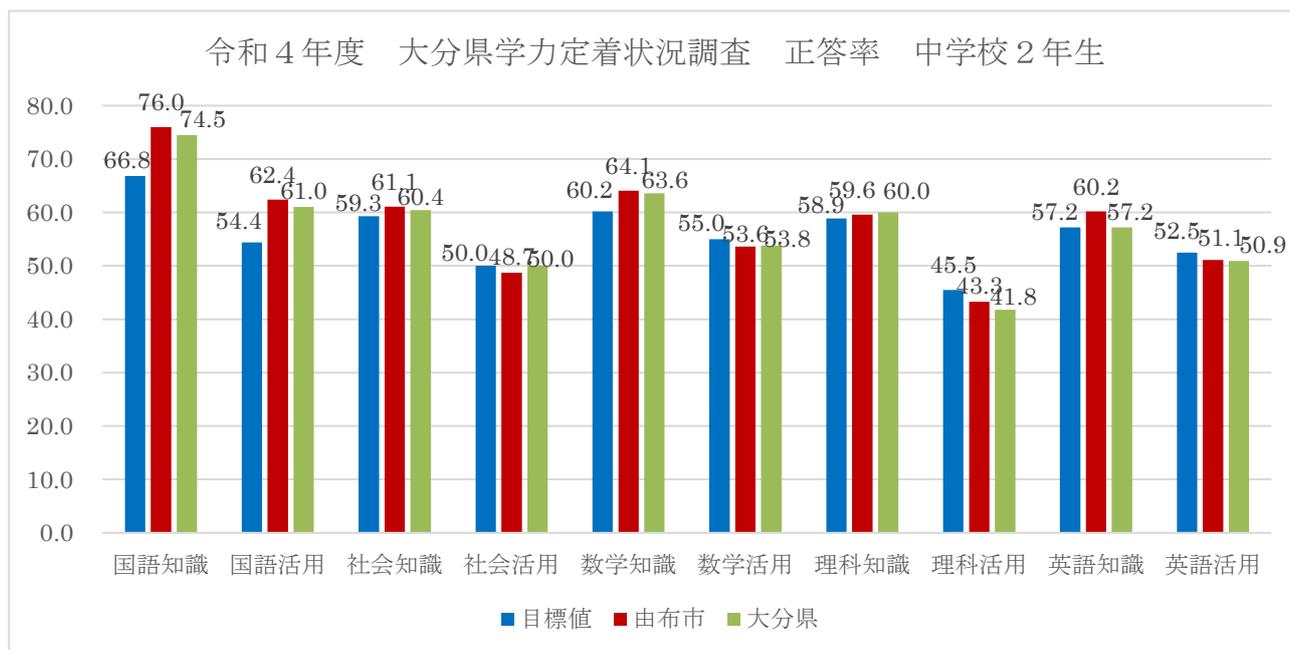
○2年生では、ほぼすべての教科で知識・活用ともに昨年度の結果を上回りました。

国語の知識と活用、社会の知識、数学の知識、理科の活用、英語の知識と活用で「目標値^{※注1}」「県の平均正答率」も上回っています。

○国語の「書くこと」、理科の「生命」で好成績をあげています。

○社会の活用問題の正答率は県の結果を下回っているため、さらに取組を進める必要があります。

〈図3〉 教科別正答率「中学校2年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「令和4年度全国学力・学習状況調査」＜図4参照＞

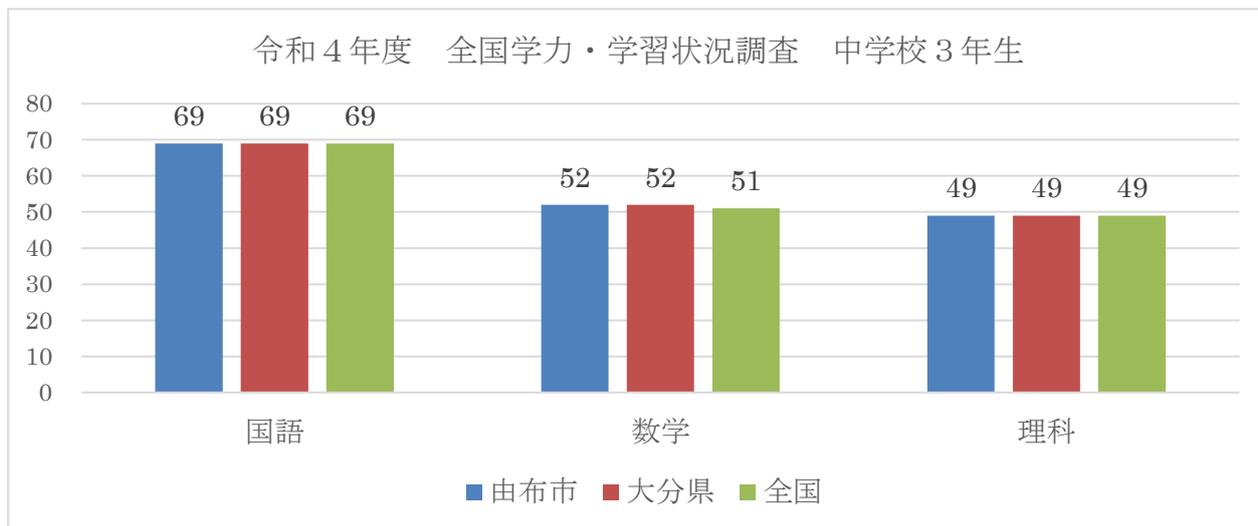
第3学年で、国語・数学・理科の調査が実施されました。

○3年生では、国語・数学・理科ともに全国平均以上です。

○3教科とも「知識・技能」の観点では全国平均以上ですが、「思考・判断・表現」の観点では全国平均を下回りました。

○国語の「書くこと」、数学の「数と式」、理科の「粒子」で好成績をあげています。

＜図4＞ 教科別正答率「中学校3年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「中学校における学力向上計画」

① 小学校から引き続く学力向上計画

小学校の部分でも記述したとおり、由布市においては、4月に実施される全国学力・学習状況調査や大分県学力定着状況調査、12月に実施する由布市学力調査結果を各校で分析し、弱点補強に取り組んでいます。また、付けたい力を明確にした「めあての提示」、生徒が自らの学習を振り返ることができる「振り返りを授業に位置付ける」等の授業改善をしてきたことが昨年度の結果を上回ることに繋がったものと思われま

す。「勉強が好き・分かる」と回答する生徒の割合が数学と英語で下がっていることが課題です。今日の授業で、何を、何のために行うのかの見通しをもち、考え、話し合い、考えを深化・統合し、まとめ・振り返るなどの学習を行う「子どもが能動的になる授業」をどの学年・どの教室でも継続実施させていきます。そうすることで、「分かった・できた」を実感できる授業を生徒と共に創り上げ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきます。

② 学力調査の結果分析をもとに授業改善

＜国語＞

○場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する。

▲自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。

＜数学＞

○自然数を素数の積で表すことができる。

▲データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

＜理科＞

○状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを理解する。

▲霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解する。

<課題解決に向けて>

自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切です。スピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認したりするなどの学習活動を仕組み、指導していきたいと考えています。

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することが大切です。二つのヒストグラムの特徴を比較して、それぞれの分布の様子を読み取った上で、コマを選ぶ根拠を、最大値、最小値、範囲、累積度数などといった指標を用いて記述できるように指導していきたいと考えています。

自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善することが大切です。指導に当たっては、他者の考察の根拠としている観測データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面を設定し、問題解決できるように指導していきたいと考えています。

中学校でも、小学校同様、これらの課題解決に向けた補充学習の取組や指導教諭・英語教育推進教員といった学力向上に特化した教員からも各校の取組を発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

(3) 今後の課題

* 県調査および国調査から考えられる由布市共通の取組

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○<u>学校全体で統一した取組</u>○<u>授業改善の充実</u>○<u>家庭学習・補充学習の丁寧さ</u> |
|---|

* 上記3点の取組を今後も実施するとともに、小・中学校の連携や学年・教科を超えた組織的な学力向上の取組も行っていきます。

授業改善と補充学習の取組をいかに充実させていくかが重点であると捉えています。

2 意識調査結果の分析

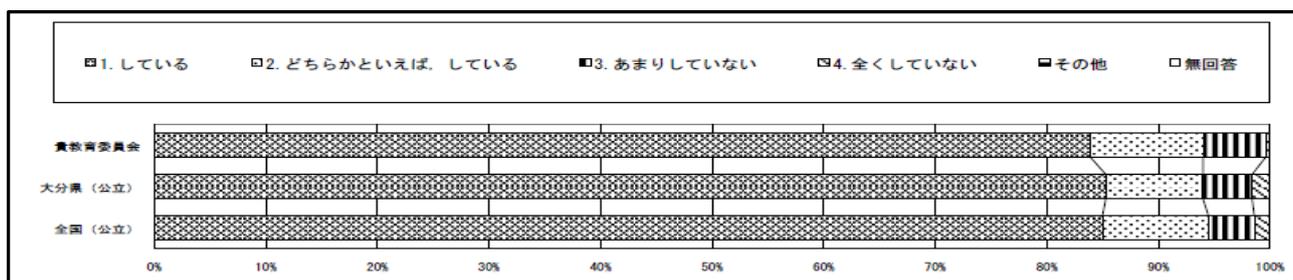
(1) 全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

全国学力・学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも、学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。

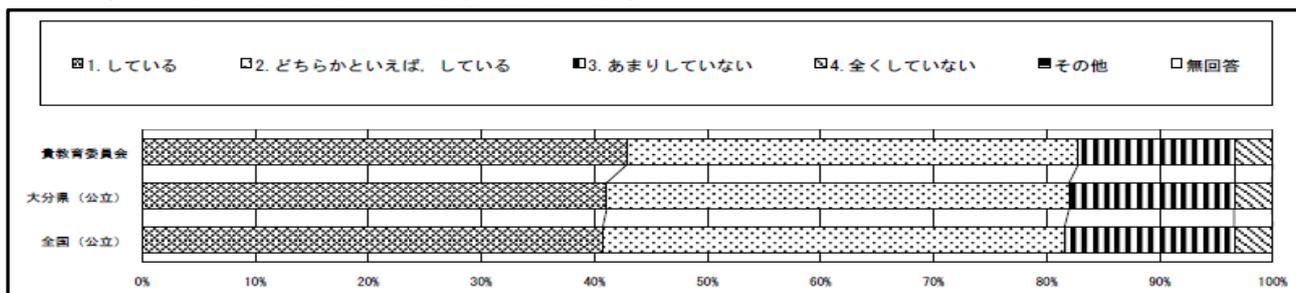
「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」 小学校6年

① 基本的な生活習慣について

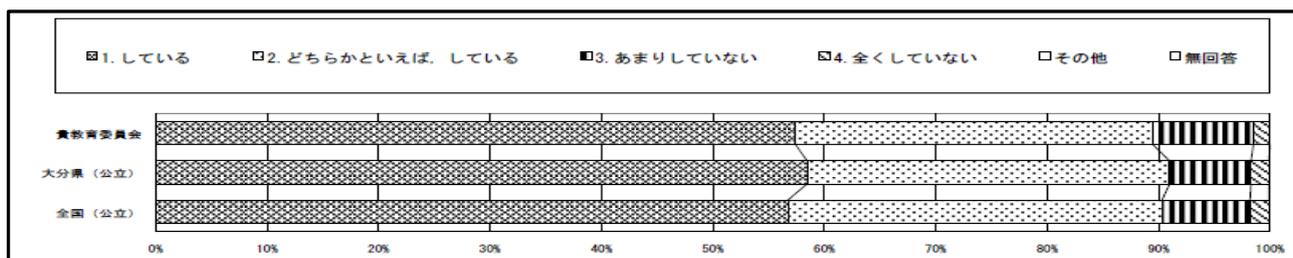
Q1 朝食を毎日食べていますか



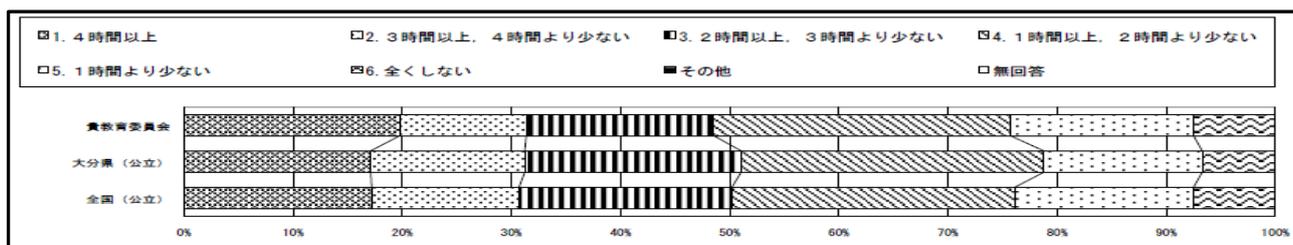
Q2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



Q3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか



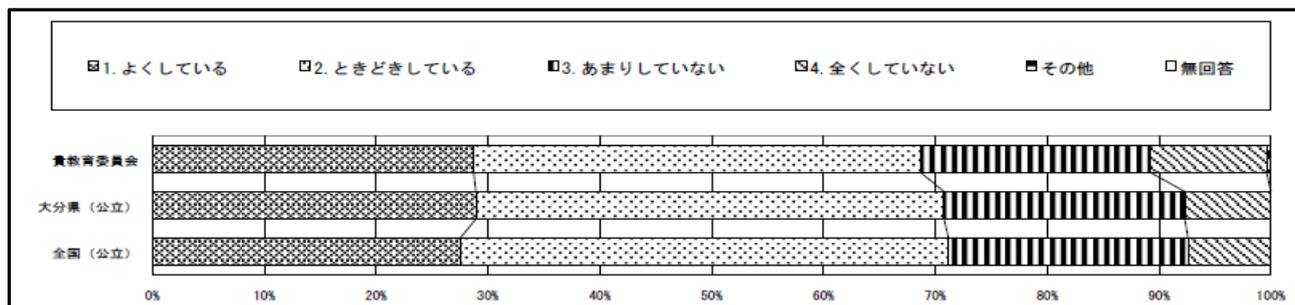
Q4 普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(携帯含む)をしますか



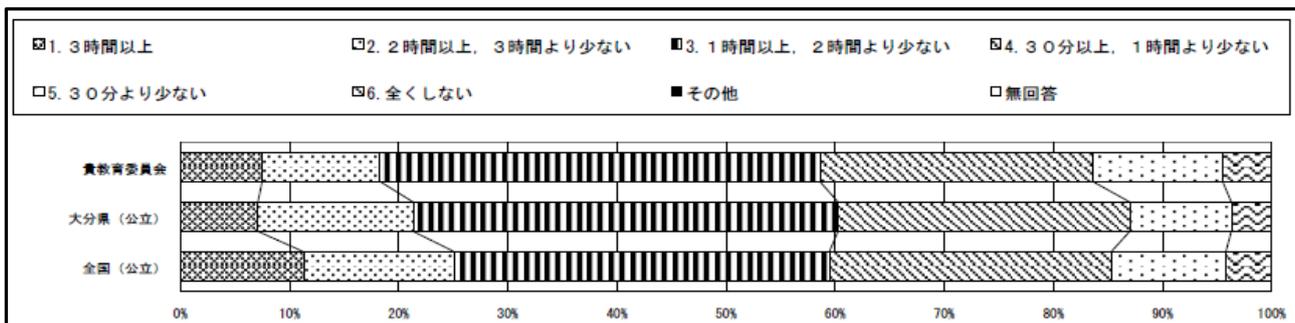
*Q1～Q3で回答1を選んでいる児童の割合は昨年よりやや少ない。Q4 1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますかについて、4時間以上と回答した児童の割合が全国値より高いです。このことは、学校を通じて啓発活動をしていく必要があると考えています。

② 学習習慣について

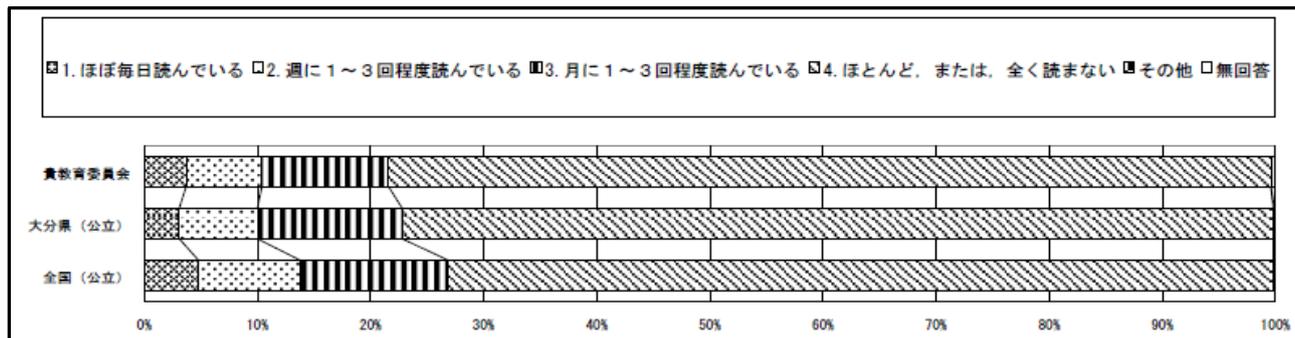
Q 5 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



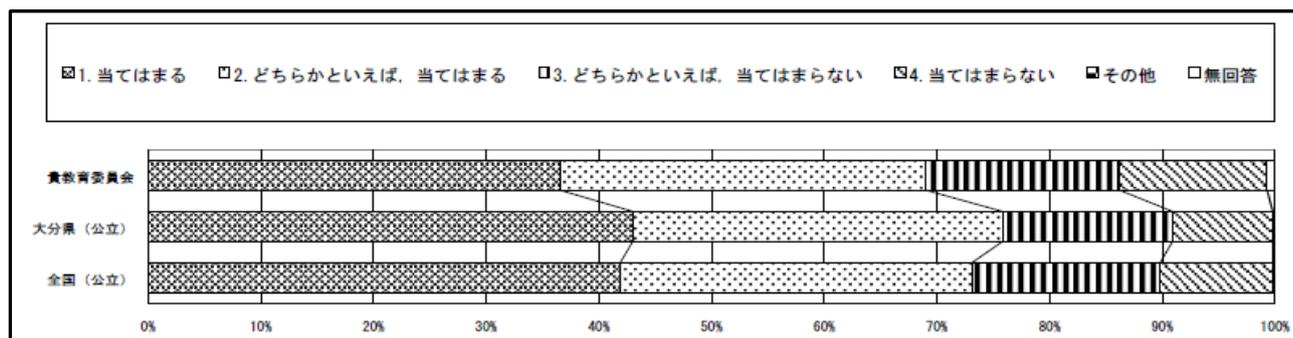
Q 6 学校の授業時間以外でどのくらい勉強しますか (1日当たり 月～金)



Q 7 新聞を読んでいますか



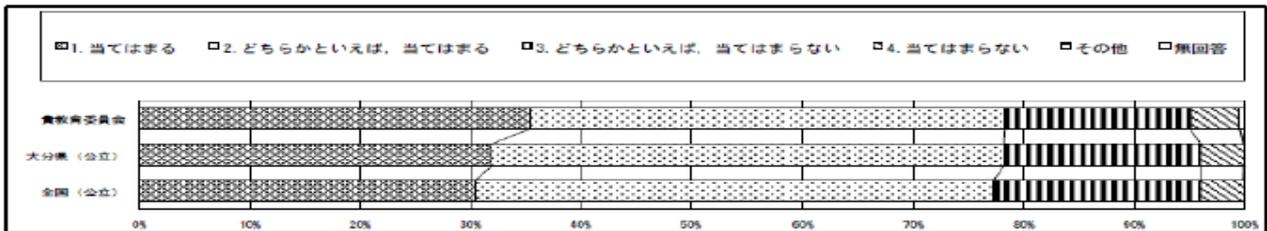
Q 8 読書は好きですか



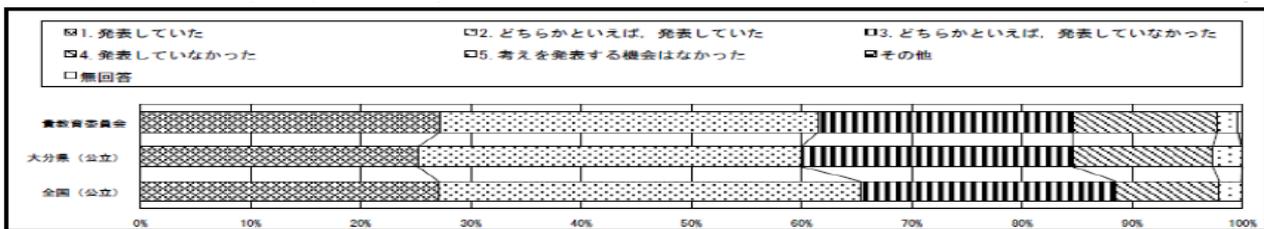
* 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」割合は、全国や県より高いです。
 ただ、2時間以上学習する児童が少ないことがわかります
 「定期的に新聞を読むこと」については、「読まない」児童の割合は、県や国と比べて高いです。「読書が好き」についても、肯定的回答の割合が、全国や県より低いです。授業等で図書館を活用したり、新聞を活用したりする活動に今後は取り組む必要があると考えています。

③ 授業改善について

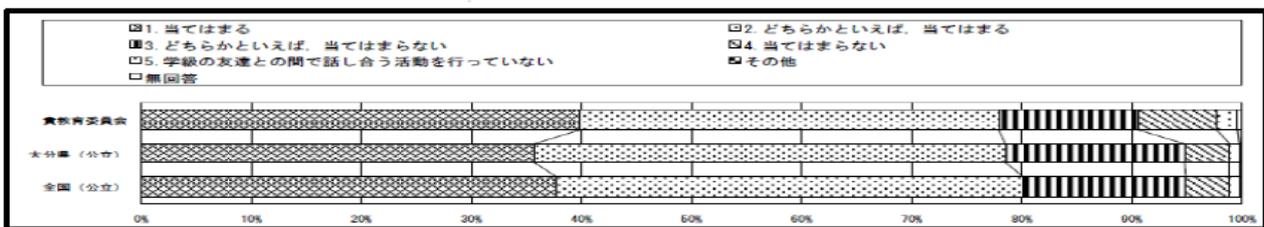
Q 9 5年生までに受けた授業の中では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



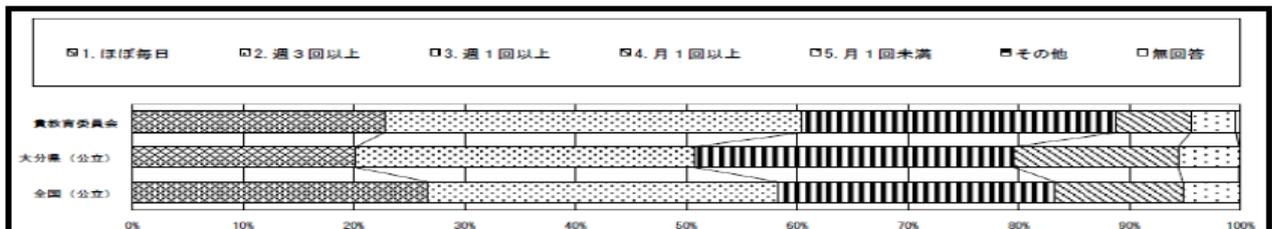
Q 10 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



Q 11 学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



Q12 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



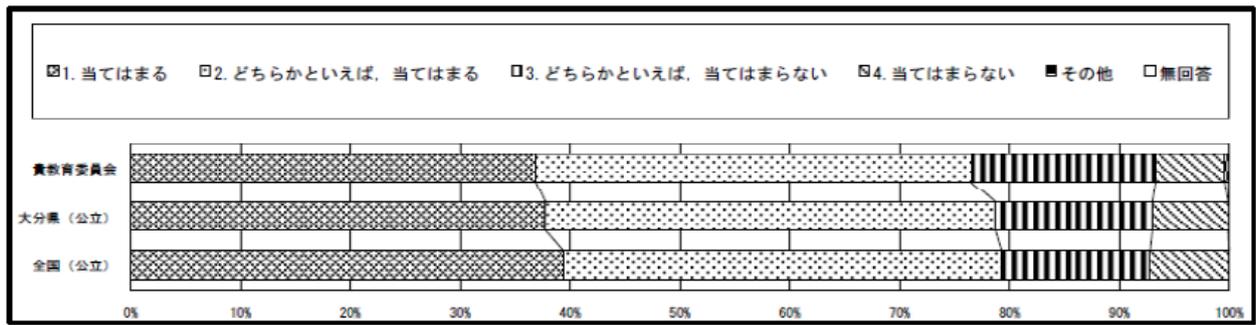
Q13 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



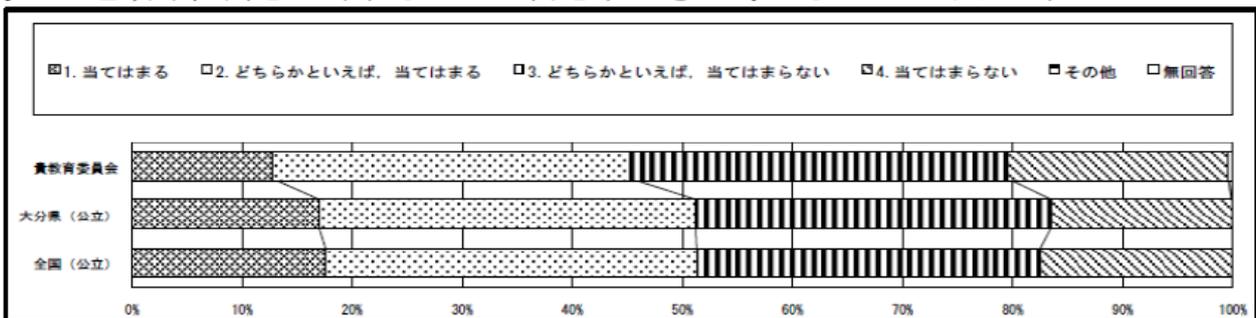
* 「授業で課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」「話し合いの活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」の割合は、全国平均以上。今後も、毎時間の授業や由布学等を通して、課題発見・解決の授業展開に継続して取り組んでいきます。タブレット端末について、児童は勉強の役に立つと考え、学びの深まりを実感しています。授業や家庭学習において、児童の学びに効果的であると思われる場面で積極的に活用していきます。

④ その他の項目について

Q 1 4 自分にはいいところがあると思いますか。



Q 1 5 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

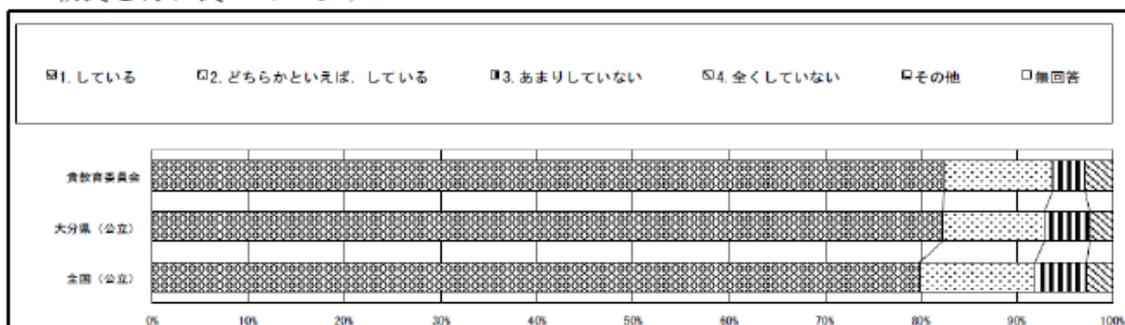


* 昨年同様、2年前までに比べ肯定的回答の割合が低くなっています。自己肯定感の高まりを目指して、人間関係づくりプログラムの継続した取り組みや道徳の授業に力を入れていきます。コロナ禍で地域行事が減少していますが、総合的な学習の時間を通して、地域との関わりについて考えたり、地域の課題解決や魅力発信をしたりする活動に取り組んでいきます。

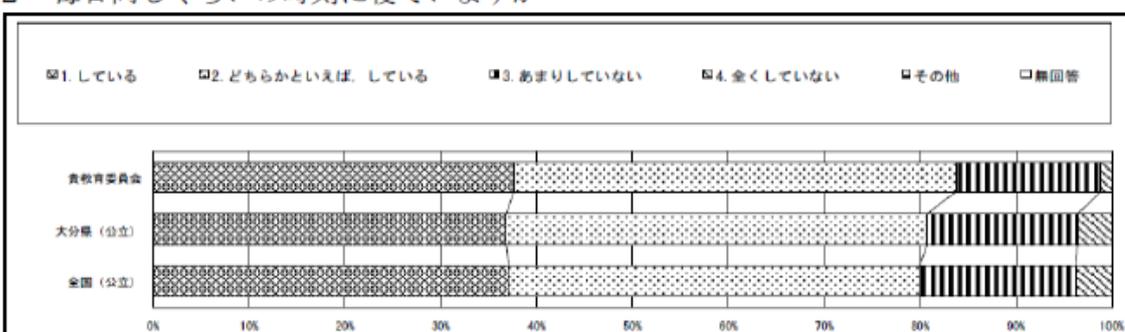
「中学校における学習習慣・生活習慣の状況」 中学校3年

① 基本的な生活習慣について

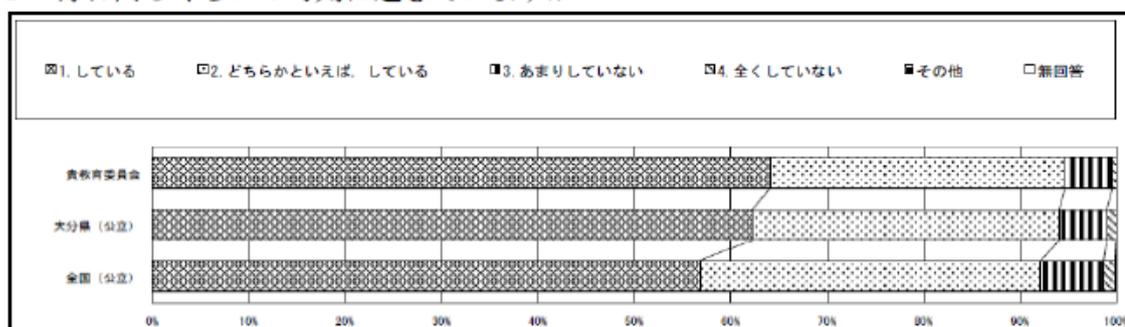
Q1 朝食を毎日食べていますか



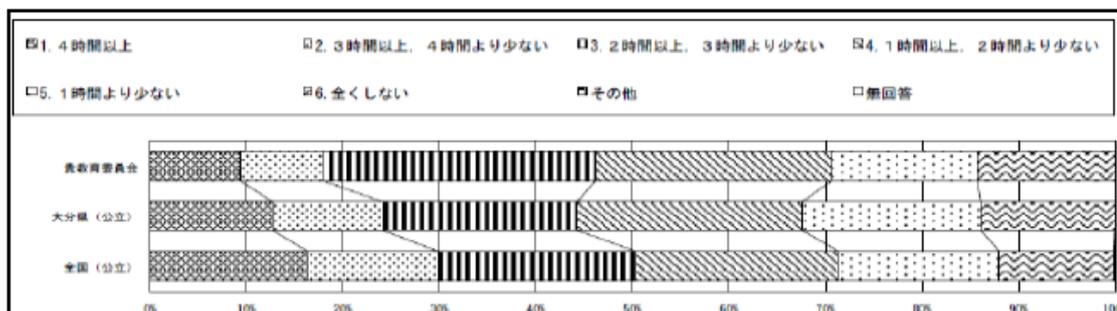
Q2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



Q3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか



Q4 普段 (月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム (携帯含む) をしますか



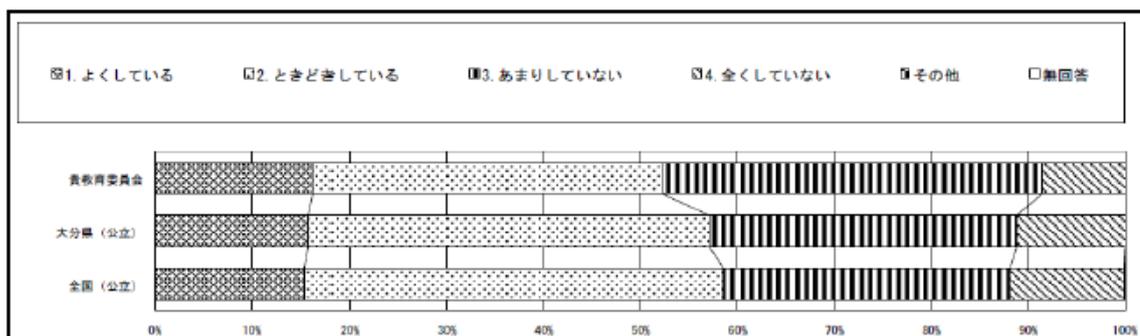
*Q1～Q3 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がなく平年通りです。

Q4、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますかについて、2時間以上と回答した生徒の割合が全国値より低いものの、45%の生徒が該当します。

このことは、学校を通じた啓発活動を継続していく必要があると考えています。

② 学習習慣について

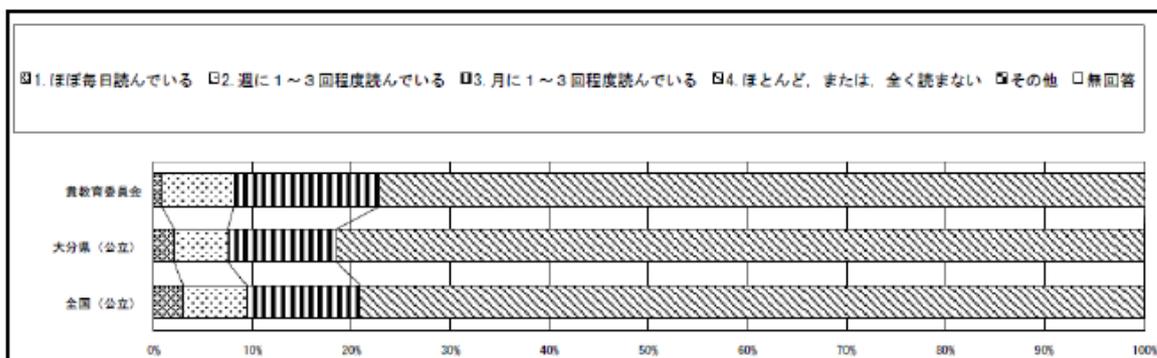
Q 5 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



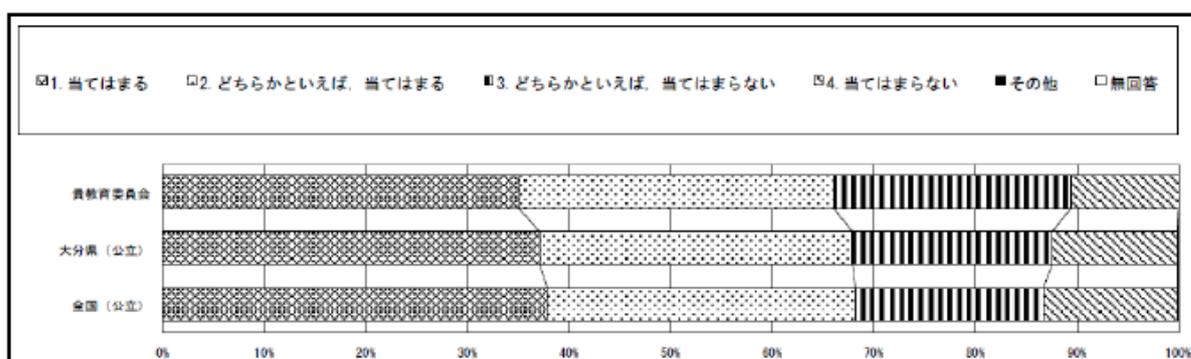
Q 6 学校の授業時間以外でどのくらい勉強しますか (1日当たり 月～金)



Q 7 新聞を読んでいますか。



Q 8 読書は好きですか。



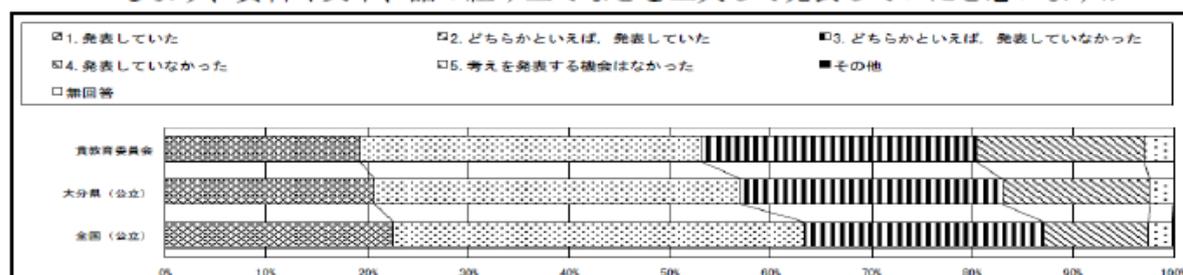
* 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」割合は、全国や県と同程度です。「2時間以上勉強している」生徒の割合が約40%、「1時間未満」の生徒が約15%です。「新聞を定期的に読む」生徒の割合が低いことが依然課題です。各教科や総合的な学習の時間で、新聞や学習図書館を活用した取り組みを行うことにより「新聞を読む」「読書が好き」な生徒の割合を高めていきます。

③ 授業改善について

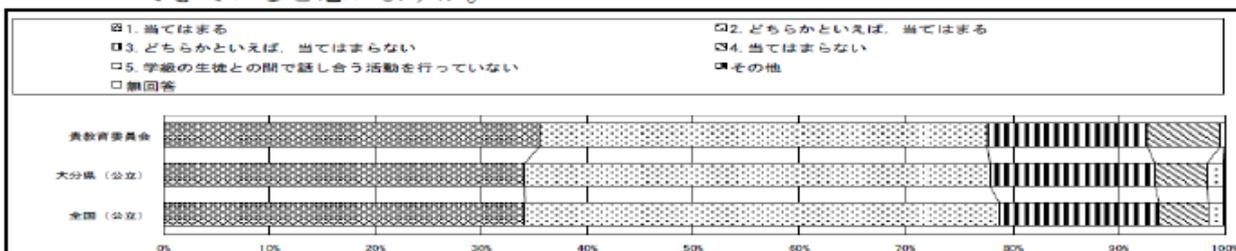
Q9 2年生までに受けた授業の中では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



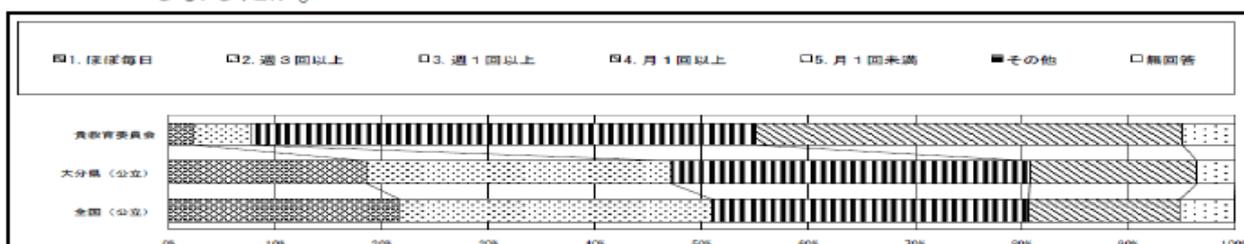
Q10 2年生までに受けた授業で、自分の考えを发表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して发表していたと思いますか



Q11 学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



Q12 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



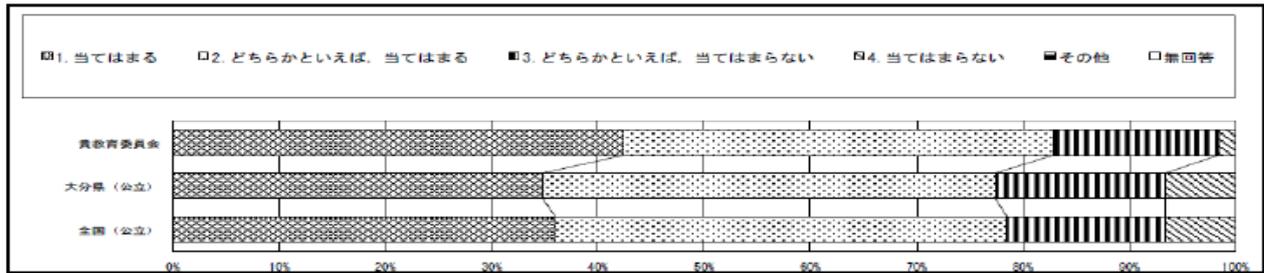
Q13 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



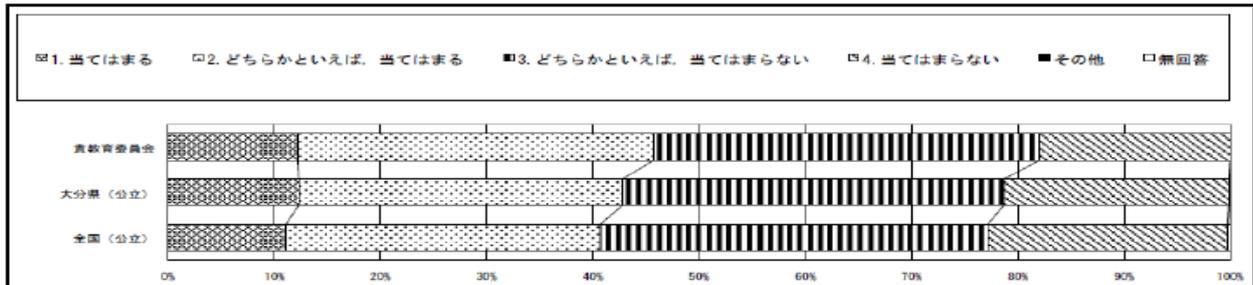
※Q9～11の割合は、全国や県と同程度です。「授業の中で生徒自身が課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む場面」「話し合いの活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う場面」を毎時間の授業や由布学の授業の中で設定していき、今後も授業改善の重点にしていきます。

④ その他の項目について

Q14 自分にはいいところがあると思いますか。



Q15 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか



* 「自分にはいいところがある」の調査から、自分の良さを感じることができている生徒の割合は高い。人間関係づくりプログラムや道徳の授業に力を入れ、生徒一人ひとりの自己肯定感が高まる継続した取り組みを行っていきます。コロナ禍で地域行事が減少していますが、総合的な学習の時間を通して、地域との関わりについて考えたり、地域の課題解決や魅力発信をしたりする活動にも積極的に取り組んでいきます。

(2) 全国学力・学習状況調査の学校質問紙からわかる状況

各校より出された回答の中で、成果及び課題と思われる点に絞って分析しました。

①成果とみられる項目

<小・中共通>

- 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。(小100%、中100%)
- 授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。(小100%、中100%)

②課題として考えられる項目

<小・中共通>

- △児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか
(小30%/県42.7%) (中0%/県48.8%)

③結果を踏まえて

<小・中共通>

- 今後も、「総合的な学習の時間」において各教科で身に付けた力を生かしていく視点を持ち、由布学(幼・小・中・高)に取り組んでいく。
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、今後も児童生徒が互いの考えを深めたり、広めたりすることができる課題解決的な展開の授業を仕組んでいく。
- 各教科のどんな場面でタブレット端末の活用方法があるか、どんな場面で利用することが効果的かについて研修を行ったり、各校の事例を研究主任会や情報担当者会で情報共有したりして、積極的に活用するようにしていく。

3 今後の「学力向上」に向けて

(1) 由布市の取組の重点に加え、定期的な補充学習を行うこと

小・中学校ともにこれまで補充学習等を中心とした取組を実施してきました。その取組の成果が全国学力・学習状況調査結果や大分県学力学習状況調査結果からもみてとれます。今後も定期の補充学習を継続実施するとともに、各校で実施した分析結果を基に、各教科における組織的な授業改善をさらに進めていきます。

(2) P D C A サイクルを充実させること。

分析した結果を、改善に生かさなければ意味はありません。今年度も学校ごとに調査結果を分析していますが、その後の取組にどう生かしていくのか、市・学校が一体となってその検証を行っていきます。検証する際の一つの手段として、年度末に実施する由布市独自調査も活用していきます。2学期以降の取組についての成果や課題を再確認していきたいと思えます。幸い、調査結果ではよい兆しが見えてきています。今後ますます、授業が充実するよう取組を進めてまいります。

年度によって結果が変わることが課題です。学年単位ではなく、学校全体で組織的、継続的に様々な取組を行っていきます。

(3) 学校生活を充実させること。

学校生活を充実させるためには、学習面・生活面の両面を充実させる必要があります。今後、特別活動や道徳を充実させていくことで、知・徳・体バランスのとれた児童生徒の育成に一層取り組みます。

* 中学校では3校が共通して取り組む内容を下記のように設定し取り組んでいます。また小学校から取り組める内容については、小学校も共同歩調で取り組んできました。

内容の骨子としては、
～生徒と授業の目標や流れを共有するために～

① 新大分スタンダードに基づく授業改善（小学校兼）

② 児童・生徒による授業評価の導入（小学校兼）

③ 組織的な家庭学習の研究（小学校兼）

～世代交代期に対応した人材育成を行うために～

④ 3中学校合同教科部会の実施

⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承

～小学校独自プロジェクト～

⑥ 低学年から確実に力をつけていくための「基礎基本系統表」に基づく学力定着

上記の内容を、推し進め学年間や学校間や教科間で極端な結果の差が出ないようにしていきます。